

待ち合わせの相手が見つからない場面のようにだ。コンコース（中央広場）独特の無秩序な人の流れを表現して下句、鋭い。群衆の中の孤独だが、動きの表現に中心がある点が、特色になっている。

病院の仕事を早めに切り上げて真昼の小さな町医者へ行く
高橋秀

大病院で仕事をしているらしい現場の歌が四首並んだ後に、この歌をおいたユーモアのセンスに注目。王様のかっこうで舞台上に立っていた人が、ふつと質素な台所で水を飲んでいるような、意想外の脱力感が魅力。「小さな」という駄目押しのような形容詞が利いている。

フクシマの町の役場に雉が鳴き駅に街路に猪群れる
天野明

福島県のホームページを見ると、キジ、イノシシを含む野生動物を食べていいかどうか、出荷制限の一覧表が出ている。今ではキジもイノシシも捕獲する人もなく、野放し状態になっているのだろう。恐ろしい状態なのに、一読、おとぎ話のような不思議な世界が現出されていることにおどろいた。

バス停に居ればだんだん師走めくとへば物を持つ
人の数
久松宏二

年末になって手に物を持つ人が増えてきたのである。「だんだん師走めく」という、考えてみれば奇妙なフレーズが位置をえているところに可笑しみを讀んでいい。

かたち良きおとがひふたつ語りある時雨にくもる窓

のむかうに

岸並千珠子

ラシックな、竹久夢二がいた大正時代の絵のような雰囲気注目。「おとがひ」という古い語が、ここではないにも位置をえている。

れんこんの節々洗ふやうに子を並べて洗ふ表も裏も
服部心子

比喩の意外さに注目。何人かの子を風呂かシャワーで洗っている場面。「表も裏も」が、うまく、可笑しい。大騒ぎする子供の声が聞こえてくるようだ。「子を並べ」の子は、自分の子とも読めるが、仕事で子供たちに接しているのだろうと私は読んだ。

孫とわれ二人で拾いしドングリのひとつ転がし子猫
があそぶ
植田美紀子

一首のなかに二つの物語を抱きこんだかたちになっている点が独特である。「孫とわれ」ふたりの物語、そして一匹で遊ぶ仔猫の物語。読者を懐かしい気分へ誘い出してくれる。

何も言わず静かに笑って座りおり存在するというこ
と疲る
宇都宮とよ

喫茶店とか、何かの会とか、何人かがその場所にいる場面だろう。会話に加わるでもなく、外側から見れば。ただにこにこ笑っている。しかし、内面では「存在する」という「そのことの疲れを感じているのだ。高齢によるだけではない、哲学的な人間の存在にかかわる世界を讀んでいいだろう。」